

視察報告書

三次市議会議長 様

報告者 小田伸次



下記の通り、視察が終了いたしましたので報告いたします。

期 間 平成 29 年 11 月 11 日～12 日

視 察 先 徳島県三好市

視察用務 妖怪博物館建設に伴う今後の協力依頼

対 応 者 京極夏彦・荒俣宏・KADOKAWA・小松和彦ほか

概要及び所見

この度、11月12日(日)に徳島県三好市にて開催された、岩手県・鳥取県・徳島県の3知事も参加して行われた「怪フォーラム」並びに、「妖怪祭り」に本市の物怪プロジェクト三次が参加して日本妖怪博物館建設の宣伝を行うのに伴い、フォーラムの参加者でもある荒俣宏・京極夏彦・小松和彦氏と、取りまとめ役である KADOKAWA の郡司氏に対して、博物館の周知とどの様に進めて行けば良いか等のアドバイスを受けに、瀬崎副市長・特命担当藤井両氏を同行して行った。

地元住民の理解と協力を得ることが一番大事なことであるとの事。湯本さんのコレクションが有るから良いと言うものではなく、コンセプトと方向性をしっかり持ってやらなければならないとの事であった。2度目の訪問となった荒俣氏からは、オーバーな表現ではあるが「誰か死ぬ覚悟で取り組まないといけない。今の小田さんでは出来ないよね。」と言われた。京極さんは、「簡単ではないが是非とも成功事例になってほしい。」とも言われた。小松先生は、いつもの様にひょうひょうとした感じでお話ししていただきました。どの方も何かお願いしたいときには相談に乗って頂けそうであった。ただ、気合を入れて行かないと簡単なことではないということも強く感じた。

また、今回の視察で宿にした、空き家リノベーションの施設は、今後三次でも使えるようなシステム(事業)でもある。と、感じた事と、久しぶりに出会えた KADOKAWA の及川氏も現在担当している雑誌 WOKAR の関西版か九州版でいつか記事で扱ってやろうとの話も頂いたことも収穫であった。

さまざまなメディア・人物・地域の協力を得ることと、エンターテイメント部門をどの様に構築するかが重要であるように思えた。

コンテンツは妖怪であるが、様々な地域と結ばれ、メディアの注目も集めることが出来て、今後三次市の情報発信に役立つことは間違いないと確信出来る視察であったとして報告する。